

西側が募集したテロリスト 25,000 人が、ISIS に加わっている——国連報告

【訳者注】昨年初めにウクライナで政変が起きたときは、このような論調はまだ少なかった。それから1年以上たって、いよいよ、隠しようのない事実が誰の目にも見えてきた。現在、米 - NATO - イスラエル - サウジのやっていることが、世界人類に対する歴然たる犯罪であり、最大のテロだということ、そして、それに伴うメディアの責任である。もはやメディアの左傾・右傾などと言っている時ではない。犯罪・テロに協力して世界を滅びに導くか、真実を明らかにして世界を救うかの、どちらかである。メディア関係者は、これ以上シラを切ることも、“ビッグブラザー”の顔色を伺うことも許されない。それを貫くことで国民を「悪の枢軸国」の共犯者の立場に導くとしたら、それは犯罪である。

By Joachim Hagopian

Global Research, April 4, 2015



ISIS が昨年 6 月、シリアから南方のイラクへ移動し、2 番目に大きい都市モスルを抵抗に逢うこともなく占領し、新聞見出しに躍り出て以来、アルカーイダと ISIS テロ・グループを、国連がモニターしているが、その公表されたばかりの国連報告によれば、驚くなかれ 100 か国以上からの外国応募兵が、イラクとシリアだけでも 2 万人集り、いわゆる西側の不信仰者どもを中東から追い出すと称する、テロリストたちに加わった。その上更に 5,000 人の外国からの新兵が、リビアや、現在ではイエメンのような、別の戦争地帯で戦っている。

<http://bigstory.ap.org/article/cec52a0dbfab4c00b89bc543badf6c20/un-report-more-25000-foreigners-fight-terrorists>

レーガン - ブッシュ政権の間に、アメリカは、アルカーイダとして知られるようになったテロリスト組織を、CIA を通じて創り出し支援するようになったが、彼らは 1980 年代初期のアフガニスタンで、アメリカの傭兵同盟軍として、冷戦時代の敵、ソ連と戦って成功していた。その後、クリントン政権下の米 - NATO 軍が、1990 年代に、バルカン諸国で、アルカーイダをアメリカの傭兵として展開し成功した。それから 9・11 テロで、ブッシュのネオコンたちが、19 人の“ボックス・カッターをもった”ムスリムの手下（15 人はサウジアラ

ビア人) を、彼らの“テロとの戦い”用の傭兵にを使って、アメリカへのニセ旗攻撃を成功させたときには、アルカーイダの中心メンバーは推計 1,000 名以下になっていた。これを担当したネオコンたちは、その後イラクとアフガニスタンで、カネのかかる 2 つのアメリカの戦争を敗北に導き、2 つの荒廃した収拾のつかぬ国家をつくり出し、これらの国家はいまだに、アメリカのつくり出した宗派間内戦の暴力の泥沼から抜け出せないでいる。2015 年の現在、もしこの国連報告の数字を信じてよいとすれば、ネオコンたちは、彼らの作ったものを、彼らがずっと望んでいたもの——永遠のテロとの戦い——に導いたことになる。

<http://www.washingtonsblog.com/2012/09/sleeping-with-the-devil-how-u-s-and-saudi-backing-of-al-qaeda-led-to-911.html>

<http://www.globalresearch.ca/articles/VIN204A.html>

<http://www.thedailybell.com/editorials/35537/Jeffrey-Berwick-The-Walls-Are-Crumbling-Down-Around-911-Why/>

<http://web.stanford.edu/group/mappingmilitants/cgi-bin/groups/view/21>

昨年 9 月の International Business Times のある論文は、外国からやってきた ISIS 戦士は 2,300 しかいないと推定した。ほんの半年のうちに、その数は、国連によれば 10 倍以上の 25,000 人に膨れ上がった。最新の国連の推計は、昨年中ごろ以降の、外国人応募兵の増加を 71%としている。いずれにせよ、国連の報告が正確だとすれば、世界中からやってきてイスラム国のテロリストになる外国人は、指数関数的に増えている。これは、西側のいわゆる“テロとの戦い”について何を物語るのだろうか？ いわゆる麻薬との戦いと同じように、それは作られた“戦争”であって、決して勝つのではなく、何百万のたいていは貧しい少数者を、あちこちのアメリカ刑務所コンビナートに収監するための戦争で、一方、米連邦政府という国際的犯罪シンジケートは、もう一つの“勝てない”戦争から、何十億という利益を上げ続けている。テロに対する戦いも同じように利用され、唯一利益を上げるのは、アメリカ軍需産業である。これは各所に散らばる私的な請負産業で、安全保障産業として成長し続けている。犠牲者のほとんどは、帝国主義的な、石油を流血によって奪う一方的戦争に巻き込まれた中東の国の、罪のないムスリムたちである。

<http://www.ibtimes.com/why-do-people-join-isis-psychology-terrorist-1680444>

<http://bigstory.ap.org/article/cec52a0dbfab4c00b89bc543badf6c20/un-report-more-25000-foreigners-fight-terrorists>

<http://www.globalresearch.ca/the-spoils-of-war-afghanistan-s-multibillion-dollar-heroin-trade/91>

<http://www.globalresearch.ca/the-lies-and-crimes-of-911/10117>

イスラム国兵士のほとんどは、中東と北アフリカから来た者たちだが、ますます多くの“過激化された”西洋諸国からのメンバーが、米と結ぶ NATO 国家のトルコを通過して、シリア

やイラクに入っている。イスラム過激派たちは、歴史的にトルコ国内で、ヨルダンなど他の同盟国と一緒に訓練を受けている。明らかな懸念は、これらの募集された過激派が、イラク、シリア、リビア、イエメンなどで戦いながら、テロリストの技術を磨いたあとで、本国に帰って西洋の地でテロを行うことである。1月のシャルリ・エブド事件を思い出してもらえばわかる通り、テロリストたちは明らかに、フランスで殺しの騒ぎを起こす前に、イエメンで訓練を受けていて帰国したばかりだった。アメリカやヨーロッパで、同じようなニセ旗攻撃が、イスラム国帰りのテロリストによって起こされる可能性は高い。少なくとも、この国連報告やワシントンの連邦準備銀行が、我々に信じさせようとしているのは、そういうことである。それはすべて、ねつ造されたテロとの戦いの一部である。このシナリオは次に、戒厳令を発令するのに好都合な危機として利用されるだろう。

<http://bigstory.ap.org/article/cec52a0dbfab4c00b89bc543badf6c20/un-report-more-25000-foreigners-fight-terrorists>

http://www.huffingtonpost.com/2015/01/11/charlie-hebdo-gunmen_n_6451600.html

これら増大する数のイスラム・ジハードイストが、我々にとってどれくらい危険であるかは、議論の余地があるだろう。9・11 以後の不気味なプロパガンダ戦略の一部は、テロの犠牲になるリスクを偽って誇張して、市民の自由の抑圧を正当化することに利用し、西側諸国の本国で、ファシスト安全保障国家をつくり出すことにある。アメリカ人が、いわゆるテロリストによって殺されるよりも、彼らを保護すると称する警官によって脅され殺される確率の方が 55 倍も高いという事実を考えれば、この略奪的で、強欲な、腐敗した安全保障国家は、アメリカ人にとって、どんなイスラム・テロリストよりも遥かに危険である。だからイスラム・テロリストの危険の宣伝を、故意に、指数関数的に高めていくことは、地球的全体主義と国内の暴政を強化しようとする **New World Order** の計画に、寄り添うもので、それは、“西洋の厳格な反テロ法” というお題目の仮面をかぶって宣伝される。

<http://www.washingtonsblog.com/2015/03/youre-55-times-likely-killed-police-officer-terrorist.html>

一方において、米 - イスラエル - サウジ連合が、アルカーイダや ISIS を創っただけでなく、財政支援し、武装させ、訓練し続けていることの証拠は、反論の余地のないものである。過去 6 週間にわたって、米軍が、イラクでもシリアでも、兵器や弾薬や食料をその前線に、規則的に空中投下している様子は、何度も現場を捉えられている。

<http://www.thecanadiancharger.com/page.php?id=5&a=1832>

<http://www.globalresearch.ca/delivery-of-us-weapons-and-ammunition-to-isis-iraqi-commander-wiretaps-isis-communications-with-us-military/5437627>

米帝国は今や、アフガニスタン、バルカン諸国、イラク、リビア、シリア、ソマリア、そし

て今、イエメンの地上で、アルカーイダ/ISIS を、その代理戦争をさせる傭兵として展開する、長い歴史をもっている。彼らは、アメリカの地球制覇と地政学的チェスボード上の支配を、人類の犠牲において達成させるために、ひそかに帝国から支払いを受けている。その上、現在、サハラ以南のアフリカの、汚い秘密の小さな戦争にかかわっている CIA と米特殊作戦部の軍情報部は、この大陸の南部全体に広がる、ボコ・ハラムのようなアルカーイダの末裔とつながっている。

<http://www.globalresearch.ca/is-boko-haram-a-cia-covert-op-to-divide-and-conquer-africa/5431177>

考えてみるべきもう一つの問題は、なぜこれだけ多くの若者が、西側を含めてこれだけ多くの国々から、命を賭して遠い異国で戦おうと集まるのかということである。イスラム教は、狂信や暴力的過激主義を引き付けるのだと言う人があるかもしれない。このイスラム恐怖症はプロパガンダの道具というべきで、この幅広い思い込みの働きによって、いわゆるテロとの戦いをイスラムとの戦いに変えてしまったのである。ムスリムは、このテロとの戦いをつくり出したネオコン犯罪集団にとっては、便利な、贖罪の山羊として利用されている。アメリカのメディアがスニ派ムスリム軍団として宣伝する ISIS 殺し屋傭兵団は、完全に宗教なものではない。

<http://www.globalresearch.ca/the-hidden-truth-the-rising-tide-of-global-racism-and-xenophobia/5428854>

<http://www.globalresearch.ca/the-hidden-truth-the-rising-tide-of-global-racism-and-xenophobia/5428854>

これらの新しく加入した ISIS 応募兵とは、どういう人々なのか？ 若い冒険家、間違っ導かれた絶望した者たちや観念論者、ISIS の宣伝メディアに動かされた、怒れる反米主義者、安定も機会もない世界的な貧しい経済の生み出した者たち、米帝国の残忍さを目の当たりに見た者たち——こういったことすべてが、最近の大幅に増えた応募者の動機になっているかもしれない。

<http://www.ibtimes.com/why-do-people-join-isis-psychology-terrorist-1680444>

しかし 9・11 以来の、増大する暴力とテロの長い年月の中で、本当に無意味な悲劇は、アメリカの納税者の 6 兆ドル以上のカネが浪費されて、イラクでもアフガニスタンでも、恐ろしい逃げ場のない修羅場を作り出したことで、この 2 つの、アメリカ史上最も長く続いている戦争が、ますます多くのテロリストと、それ以上に武装された、危険な世界をつくり出したのである。オバマの殺人無人機による空からのテロによって、何千という罪のない人々の命が奪われている場所が、まさに ISIS 軍の人数が劇的に増えている場所であるのは、偶然ではない。だから、もし無人機がテロリストの数を減らしている（無実の市民の死者が

96%を占める)と思われるなら、明らかにそれは逆効果になっている。ここで“もし”という言葉を使ったのは、アメリカの無人機戦争が**実はテロリスト増やすため**に行われていることが、ほぼ確実だからである。

いつもきまって、アメリカの作った傀儡政府が、決して民衆の支持も人気も得ることができないのは、彼らが、自分の国の繁栄でなく、超国家企業のより大きな利益と、アメリカの地球制覇のために奉仕しているからである。したがってあらゆる場合において、人民運動は常に、腐敗した弱い米傀儡政権に反対する、自由を得るための集団として起こっている。これらのいわゆる反乱軍が、西側の圧政者から彼らの祖国を奪い返そうとするのは、当然の権利による。我々はそれを、ベトナムで目撃し、より最近ではアフガニスタンで2度、イラク、ウクライナ、そして現在はイエメンで目撃している。アメリカ帝国主義こそ真の人民の敵である。いろいろなムスリム・セクトがあっても、これまで宗教的分裂の起ったことのない中東で、米帝国主義は、きまって、分割して征服せよという古い戦略を用いてきた。これはムスリムとムスリムを、民族と民族を戦わせ、またニセの ISIS - 敵 - 傭兵を含む西側軍と、イラン、ロシア、中国に支持された東側軍を戦わせる戦略である。一国の内部で何世紀もの間、平和共存してきたグループを、突然、敵同士に分裂させるのが、この帝国の切り札の手口である。

<http://www.socialism.com/drupal-6.8/articles/isis-crisis-made-imperialism>

150万のイラク人が死に、アフガニスタン、シリア、リビアでは更に数十万を加えた人々が死に、現在イエメンで毎日、人々が死んでいる状況の中で、これら米 - NATO 軍が介入した国々の土着の人々の生活水準は、かつてなかったほどに悪化し、西側の破壊行為の通った跡には、解体された国家が残されている。アメリカの対外政策の人殺し侵略は、さらに多くのテロリストをつくり出すだけで、彼らがしばしば、米帝国によって殺された家族に対する復讐を動機とするのは、理解できる。にもかかわらず、9・11 やらせ犯行以来、グローバルリスト国際犯罪シンジケートとしての、イスラエル - サウジ - 米 - NATO という悪の枢軸は、西側を占領し、思い通りにその破壊的な死のアジェンダを拡大し、中東、北アフリカ、さらにその先まで、あらゆる狙った国家を不安定化させるのに成功した。これはこの惑星全体を、今、第三次大戦に発展しようとしている西と東の軍事対決に、故意に導くのが目的である。それは、ロシア、中国、イラン、そしてシリアを、その生き残りそのもののために、防衛的同盟を結ぶよう強制している。ネオコンのグローバルな、テロとの戦いの結果を最小限に考えても、それは人類歴史上かつてなかった、更なる地球的テロに直接つながるものである。時がたつにつれて、苦悶と共にますます明らかになってきたのは、これがすべて、悪魔的な NWO の企みによって起ったものだということである。

<http://www.thedailybell.com/editorials/35537/Jeffrey-Berwick-The-Walls-Are-Crumbling-Down-Around-911-Why/>

http://www.liveleak.com/view?i=6ca_1426515239

<http://www.globalresearch.ca/flashpoint-in-ukraine-how-the-us-drive-for-hegemony-risks-world-war-iii/5410571>

(ヨアヒム・ハゴピアンは、ウェスト・ポイントの卒業生で、前米軍士官。彼はユニークな軍隊経験を基にして、*Don't Let the Bastards Getcha Down* (野郎どもに騙されるな) という本の原稿を書き、アメリカの国際関係、リーダーシップ、国家安全保障問題を中心に精査し、論じている。除隊後、ヨアヒムは臨床心理学の修士号を取得し、免許のあるセラピストとして四半世紀以上、精神障害分野で仕事をした。現在は、著書とブログの執筆に専念している。<http://empireexposed.blogspot.com/>)